

# 【参考1】日本の世界自然遺産地域の概要（1）

（環境省資料より）

	知床	白神山地	小笠原諸島
1. 登録年月	平成17年（2005年）7月	平成5年（1993年）12月	平成23年（2011年）6月
2. 位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道斜里郡斜里町及び目梨郡羅臼町</li> <li>オホーツク海と根室海峡に接した北海道東北端にある知床半島の一部</li> <li>羅臼岳（1,660m）をはじめとする半島の脊梁部を軸とした陸域と、海岸線より沖合3kmまでの海域を含む地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青森県西津軽郡鰺ヶ沢町、深浦町、中津軽郡西目屋村、秋田県山本郡藤里町 （管理計画では隣接する秋田県能代市及び八峰町も地元市町村と位置づけている）</li> <li>青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる標高約200mから1,250mの山岳地帯である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京都小笠原村</li> <li>東京湾からおおよそ1,000km（竹芝～父島間）南方の海上に、南北400kmにわたって散在する大小30余りの島々。父島に約2,000人、母島に約450人が居住。東京の竹芝から父島まで船で24時間。</li> </ul>
3. 面積	71,103ha（陸域48,750ha、海域22,353ha）	16,971ha（全域が林野庁所管の国有林）うち 核心地域 10,139ha、緩衝地域 6,832ha	陸域 約6,358ha 海域 約1,581ha 計 約7,939ha
4. 自然環境の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>知床は北半球で最も低緯度の季節海水域であり、海水に特徴づけられる海洋生態系と陸上生態系が連続することによって複合生態系を形成しており、海洋生態系と陸上生態系の相互関係を示している。</li> <li>海岸から約1,600mの山頂部までの間には、人手の入っていない多様な植生が連続して存在しており、豊富な餌資源と多様な環境を背景として、ヒグマは世界的にも高密度で生息している。</li> <li>知床は北方系と南方系の種が混在するなど、地理的位置と多様な自然環境を背景として特異な種構成、分布がみられるほか、シマフクロウ、オオワシ、オジロワシなどの国際的希少種の重要な繁殖地や越冬地となっており、これらの種の存続に不可欠な地域となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人為の影響をほとんど受けることなく、東アジアで最大の原生的なブナ属の天然林が大面積に残存している。</li> <li>代表する植物群落は冷温帯における気候的極相であるブナ林であり、その他にも日本海側の多雪地帯を中心に分布する日本海要素の植物が多く、林内や山頂部の風衝地、崖垂、露頭部の岩礫地等の多様な立地に540種以上の多様な植物が確認されている。</li> <li>動物は大規模なブナ林を背景に森林性の種が多くみられ、ツキノワグマやニホンカモシカなど35種の哺乳類、イヌワシやクマゲラなどの94種の鳥類が確認されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原諸島は日本の本土から約1,000km離れた海洋島である。</li> <li>生物学的・生態学的には、独自の適応放散や種分化により数多くの固有種が生まれ、特異な島嶼生態系が形成された場所。北西太平洋海域における貴重な陸地であり、多くの固有種や国際的に重要な希少種の生息・生育地となっている。</li> <li>他の海洋島と比較すると、海洋島としての典型的な自然環境を有するハワイ諸島やガラパゴス諸島に対し、距離的にも時間的にも大陸との隔離が比較的大きいこと、多数の島が存在していること、面積の大きな島や標高の高い島が存在しないが植物、陸産貝類、昆虫類の単位面積当たりの種数が多く生物多様性に富んでいること、生息・生育する種の大部分がユーラシア大陸に起源をもつことが特徴。また、現在もなお適応放散や種分化が進行中である。</li> </ul>
5. 顕著で普遍的な価値	<p>○クライテリア (ix) 「生態系」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知床は北半球で最も低緯度に位置する季節海水域であり、季節海水の形成による影響を大きく受け、特異な生態系の生産性が見られるとともに、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本である。</li> </ul> <p>○クライテリア (x) 「生物多様性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知床は多くの海洋性及び陸上性の種にとって特に重要であり、これらの中にはシマフクロウ、シレットコスミレなど多くの希少種が含まれている。</li> <li>知床は多くのサケ科魚類、トドや鯨類などの海棲哺乳類にとって世界的に重要である。</li> <li>知床は世界的に希少な海鳥類の生息地として重要であるとともに、渡り鳥類にとって世界的に重要な地域である。</li> </ul>	<p>○クライテリア (ix) 「生態系」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白神山地には、氷期の影響による植生の単純化を分布域の南下によりまぬがれたブナ属が優占する極相林が、原始性の高い状態で分布している。その規模は、北半球の冷温帯の森林において優占するブナ属の分布域の一つである東アジアにおいて最大である。地球規模の気候変動の歴史と多雪環境を反映した森林生態系は、植物群落の発達・遷移の過程を示すものとして、それに依拠する動物群集を合わせて、顕著な見本となっている。</li> </ul> <p>□このため白神山地は、地球の冷温帯の生態系、特にユーラシアのブナ林生態系の形成に関する研究や、気候変動と植生変化の長期的なモニタリングを行う上で非常に重要である。</p>	<p>○クライテリア (ix) 「生態系」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原諸島は、海洋島の生態系に特有の生物進化の様子をよく表しており、陸産貝類と維管束植物において極めて高い固有種率を示している。</li> <li>小笠原諸島の生物相は、大陸と一度も陸続きにならなかったことのない隔離された環境下で、様々な進化をとげて多くの種に分化（適応放散）した生物から構成され、特に陸産貝類と維管束植物の固有種率が高い。海洋島生態系における進化の過程を代表する顕著な見本である。</li> </ul>

## 日本の世界自然遺産地域の概要（2）

	屋久島	奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島
1. 登録年月	平成5年（1993年）12月	令和3年（2021年）7月
2. 位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島県熊毛郡屋久島町</li> <li>屋久島は九州本島最南端から南へ約60km、東シナ海と太平洋の間に位置。</li> <li>宮之浦（みやのうら）岳（1,936m）を中心とした島の中央山岳地帯に加え、西は国（くに）割（わり）岳を経て海岸部まで連続し、南は本富（モッチョム）岳、東は愛子（あいこ）岳へ通じる山稜部を含む区域が世界自然遺産として登録。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鹿児島県：<u>奄美市</u>、<u>大和村</u>、<u>宇検村</u>、<u>瀬戸内町</u>、<u>徳之島町</u>、<u>天城町</u>、<u>伊仙町</u></li> <li>※龍郷町は管理機関だが、遺産地域及び緩衝地帯は位置していない</li> <li>沖縄県：<u>国頭村</u>、<u>大宜味村</u>、<u>東村</u>、<u>竹富町</u></li> <li>日本列島の九州南端から台湾との間の海域に、約1,200kmにわたって弧状に点在する琉球列島の一部であり、中琉球の奄美大島と徳之島、沖縄島、南琉球の西表島の4つの島の5構成要素から構成されるシリアル資産である。</li> </ul>
3. 面積	10,747 ha（島の総面積の21%）	面積42,698haの陸域
4. 自然環境の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>動植物の世界的な移行帯に位置する湿潤気候下の高山として、植生の顕著な垂直分布が見られ、豊富な動植物からなる生態系が良好に保たれている世界的にも数少ない地域。</li> <li>年間降水量は4,400（里部）～10,000（山岳部）mmに達し、年間を通じた降水と雲霧により、特異なヤクスギ巨木群を代表とした特殊な植物相を有する。</li> <li>ヤクシカ、ヤク（シマ）ザル等の固有亜種をはじめ、アカヒゲ、カラスバトのほか、ヤクシマタニイヌワラビやヤクシマソウ等希少な動植物が生息、生育している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>黒潮と亜熱帯性高気圧の影響を受け、温暖・多湿な亜熱帯性気候を呈し、主に常緑広葉樹多雨林に覆われている。</li> <li>世界の生物多様性ホットスポットの一つである日本の中でも生物多様性が突出して高い地域である中琉球・南琉球を最も代表する区域であり、多くの分類群において多くの種が生息する。</li> <li>絶滅危惧種や中琉球・南琉球の固有種が多く、それらの種の割合も高い。さらに、さまざまな固有種の進化の例が見られ、特に、遺存固有種及び／または独特な進化を遂げた種の例が多く存在する。</li> <li>多くの固有種や絶滅危惧種を含む独特な陸域生物にとって、全体として世界的にかけがえのなさが高い地域であり、独特で豊かな中琉球及び南琉球の生物多様性の生息域内保全にとって最も重要な自然の生息・生育地を包含した地域である。</li> </ul>
5. 顕著で普遍的な価値	<p>○クライテリア(vii)「自然美」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋久島は、小規模な島嶼にありながら、標高2,000mに迫る山岳がそびえ、中心部の山岳地帯から海岸線に至るまで、きわだった標高差が存在する。樹齢千年を超える巨大なスギの生育地であり、スギが優占する天然林が広がる特異な自然景観を有している。</li> </ul> <p>○クライテリア(ix)「生態系」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>屋久島は、北緯30度付近では稀な高山を含む島嶼生態系であり、他地域ではほとんど失われてきた暖温帯地域の原生的な天然林という特異な残存植生が、海岸付近の亜熱帯性植物を含む海岸植生から山頂付近の冷温帯性のササ草地・高層湿原まで連続して分布している。</li> </ul>	<p>○クライテリア(x)「生物多様性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本資産は、資産が位置する列島の中部および南部の独特で豊かな生物多様性の生息域内保全において、極めて重要な自然の生息地を包含している。</li> </ul>